



Annual Report 2014

活動報告書 2014年1月－12月

一般社団法人 エル・システムジャパン





ごあいさつ

平素よりエル・システムジャパンへの温かいご支援をありがとうございます。

お陰様で、相馬では、慰霊祭や敬老会などでの演奏を通じ、地域の方々との交流が進んだことと合わせ、2014年も、国内外から多くの音楽家の訪問や発表の機会をいただきました。特に、東京のガラ・レセプションでは、ご臨席いただいた高円宮妃久子殿下、そして世界的指揮者グスターボ・ドゥグメル氏の前で、相馬子どもオーケストラを代表した13名の子どもたちがモーツァルトを奏でる機会にも恵まれました。

また、去年は、エル・システムジャパンにとって2カ所目の現場となる岩手県大槌町で新たな活動を開始することができました。相馬市同様、教育委員会が主導し、今なお仮設校舎で学ぶ中学校吹奏楽部への支援と、新たな放課後の居場所としてのバイオリン教室を始め、12月末には初めての発表会を行いました。

被災地では、震災の影響によるネグレクトや不登校の増加が報告されています。困難な状況にあるからこそ、肌身で芸術を感じ、美しさを追い求め、仲間と喜びを分かち合い、現状を変えていく。今後もエル・システムの理念を咀嚼し実践しながら、相馬・大槌の子どもたちから被災地に、そして広く日本の将来に向けて、新しい価値を生み出していくことへ繋げていきたいと思いをします。

今後とも末長く応援いただけますようお願い申し上げます。

エル・システムジャパン 代表理事 菊川 穰



【菊川穰 略歴】 1971年神戸生まれ。1995年ロンドン大学ユニバーシティカレッジ卒業。1996年同大学教育研究所政策研究修士課程終了。その後、1998年よりユネスコ・南アフリカ事務所に教育担当官。2000年よりユニセフ・レソト、エリトリア事務所において、青少年、子どもの保護、及びエイズ分野を担当。2007年より日本ユニセフ協会へ異動。2011年3月より東日本大震災緊急支援本部チーフコーディネーターとして支援活動を指揮。2012年3月に一般社団法人エル・システムジャパンを設立、代表理事に就任。



エル・システマ 日本の活動



東日本大震災で被災した子どもたちが音楽での経験を通して、自信や尊厳を回復し、自分の人生を切り開いていく「生きる力」を育むことを目的に、エル・システマジャパンは活動を行っています。

エル・システマは、1975年に南米ベネズエラで始まり、現在では50以上の国・地域で活動が行われている教育プログラムです。

皆で参加するオーケストラの形で学んでいくことを重視したエル・システマの芸術活動と教育理念が、東日本大震災・原発事故と幾重もの被害を外形的、内部的に受けている東北の子どもたちの尊厳を回復し、希望を与えることができると思いのもと、以下の活動を展開しています。

エル・システマ(El Sistema)とは



ベネズエラでホセ・アントニオ・アブレウ博士によって始められた社会変革を目指した音楽教育です。エル・システマは、英語のThe Systemと同意のスペイン語です。1975年、貧困層の拡大、治安の悪化という問題を抱えていたベネズエラで、子どもたちを犯罪や非行、暴行などから守ることを目的に始まりました。40年間取り組まれた今では、約40万人の子どもたちが参加、政府からの年間予算が65億円規模という国家プログラムに発展しています。この活動は、国際的に活躍する若手指揮者グスターボ・ドゥガメルなど多くの一流音楽家を輩出しているだけでなく、学業面も含めてポジティブな影響を与えてきていることで、ユネスコ、米州開発銀行等の外部機関からも評価されています。

皆で参加するオーケストラの形で学んでいくことを重視したエル・システマの芸術活動と教育理念が、東日本大震災・原発事故と幾重もの被害を外形的、内部的に受けている東北の子どもたちの尊厳を回復し、希望を与えることができると思いのもと、以下の活動を展開しています。

エル・システマの3つの理念

1. すべての人が経済的事情を懸念することなく、音楽、芸術にアクセスできることを保障する
2. 集団(特にオーケストラ)での音楽、芸術活動を通じ、コミュニケーション能力を高める
3. 社会規範と自己の個性の表現を両立することを音楽体験を通じて学ぶ

活動内容

音楽を通して、 生きる力を育む

直接的な支援

子どもオーケストラ
音楽教室、
夏期集中講座、講習会

体験教室

子どもコーラス
合唱教室

作曲教室

学校を通じた支援

部活動支援
弦楽合奏、合唱、
吹奏楽、金管バンド

音楽授業支援
鑑賞教室

専門家の派遣
新たな講師への研修

総合的な支援

楽器の
購入・修繕

2012年3月の設立以降、地元の人々の郷土愛に
基づくアイデンティティを大切に、地域とともに
はぐくむ音楽教育を行っています。現在までに、2つ
の地域を対象に以下の支援を実施しました。



福島県相馬市 2012年5月～2014年12月現在



一千有余年の歴史と伝統を持つ「相馬野馬追」で知られる福島県相馬市。民謡などの伝統芸能や1950年代からは器楽や合唱などが盛んにおこなわれ、地域の人々が音楽と深く関わっています。震災以降は、津波・原発事故も重なり、子どもたちが長期にわたり、困難な状況に置かれています。文化芸術による心の復興を目指し、日本ではじめてのエル・システムの活動を相馬市にて展開しました。

週末音楽教室参加者数

オーケストラ：90名（2013年4月開始時は30名）
コーラス：63名

年齢	オーケストラ	コーラス
未就学児	8名	—
小学生	67名	56名
中学生	13名	7名
高校生	2名	—

学校への支援

相馬市内小学校：10校

中村第一小学校・中村第二小学校・桜丘小学校・飯豊小学校・大野小学校・山上小学校・玉野小学校・八幡小学校・磯部小学校・日立木小学校

日々の活動

平日(日中)：学校の部活支援として、地元のバイオリンの専門家が出向き、指導

平日(夜)：中学生を中心としたバイオリンのグループレッスン

金曜：相馬子どもコーラス 合唱教室

土曜(隔週)：相馬子どもオーケストラ
習熟度別グループレッスン(9つの習熟度、
楽器別クラス)

日曜(午前)：相馬子どもオーケストラ 弦楽器教室
初級(ひつじさんチーム) 中級(パッハチーム)
(午後)：上級者(モーツァルトチーム)

<練習場所> 4カ所

相馬市総合福祉センター、はまなす館
相馬市民会館、道の駅そうま

岩手県大槌町 2014年5月～2014年12月現在



「虎舞」に代表される豊かな郷土芸能が息づく岩手県上閉伊郡大槌町。東日本大震災では、人口あたりの死者・行方不明者数が最も多いと言われるほど深刻な被害を受け、今でも多くの子どもたちが、仮設住宅、仮設校舎での生活を余儀なくされています。制限のある仮設環境で生活する子どもたちにとって、のびのびとしていられる新しい居場所づくりを目的とした音楽教育をおこなっています。

放課後・週末音楽教室参加者数

オーケストラ：23名

年齢	オーケストラ
未就学児	—
小学生	23名
中学生	—
高校生	—

学校への支援

大槌町内 小学校・中学校：4校

大槌小学校・吉里吉里小学校・大槌中学校・
吉里吉里中学校

日々の活動

月曜～木曜：放課後バイオリン教室

土曜：週末弦楽器教室

<練習場所> 3カ所

子どもセンター

吉里っ子スクール

上町ふれあいセンター

2014年の主な 活動内容

5月に日本で2カ所目の活動を大槌町にて開始。相馬では、念願の合唱教室を4月よりスタート。
相馬子どもオーケストラ&コーラスの子どもたちは、毎月のように人前で演奏する機会に恵まれました。



東日本大震災追悼式(相馬市主催)



大槌町との協力協定書調印式



大槌町でのバイオリン体験教室



なつのコンサートで仙台フィル首席メンバーと共演

- 2月21日 TAKE A STAND SYMPOSIUM 2014 (Los Angeles Philharmonic, Longy School of Music of Bard College、Bard College主催)にて、エルシステムジャパン代表理事 菊川穰が講演
- 2月23日 第2回 作曲教室
2013年11月より作曲家 藤倉大氏監修のもと、2カ月に1度のペースで相馬市にて実施(全回:ルイ・ヴィトン ジャパン カンパニー協賛)。今回は藤倉氏に加え、International Contemporary Ensemble(ICE)のメンバー5名が参加
- 3月11日 東日本大震災追悼式(相馬市主催)
相馬子どもオーケストラ&コーラスでも活躍をしている中村第一小学校器楽部と、桜丘小学校合唱部の子どもたちがモーツァルト「アヴェ・ヴェルム・コルプス」を献奏
- 3月13日-22日 指導アドバイザー、音楽監督のベネズエラ現地視察
- 4月1日 相馬市での一部活動が平成26年度文化庁地域発芸術文化創造イニシアチブ事業として予算化
- 4月5日 相馬市で「週末合唱教室」を開始
- 4月29日 相馬市柏崎地区敬老会に相馬子どもオーケストラ選抜メンバー6人が出張演奏
- 5月24日 第3回 作曲教室
作曲家 中川俊郎氏がゲスト講師として子どもたちを指導
- 5月28日 大槌町で「音楽を通して生きる力を育む」事業の実施運営に係る協力協定を締結。町内の小・中学校の吹奏楽部への支援、楽器支援を開始
- 6月22日-23日 大槌町での吹奏楽集中講習会
東京から管打楽器指導者を招聘し、大槌、吉里吉里両中学校の吹奏楽部員を対象に実施
- 6月30日 ハンガリー プロムジカ女声合唱団と相馬子どもコーラスが交流合同コンサート
- 7月2日 『LVMH 子ども アート・メゾン』オープニング・セレモニーにて、相馬子どもオーケストラの中学生選抜メンバー8人が演奏
- 7月6日 第4回 作曲教室
声楽家の松平敬氏がゲスト講師として指導
- 7月20日 指揮者 ダニエル・マツカワ氏による相馬子どもオーケストラ集中指導(野村ホールディングス協賛、PMF協力)



藤倉大氏監修の作曲教室



ルツェルン・フェスティバル アーク・ノヴァ 2014 in 仙台



大槌エル・システム バイオリン教室 クリスマスコンサート



第2回楽天こども音楽祭に参加

- 8月1日 大槌でバイオリン体験教室を実施
- 8月3日-5日 相馬子どもオーケストラメンバー総勢90名を対象とした夏期集中学習会、発表コンサート(NEC協賛)
- 8月11日 なつのコンサート
仙台フィルハーモニー管弦楽団首席メンバー、ピアニスト萩原麻未氏による特別コンサートを相馬市で開催。相馬子どもオーケストラも一部楽曲を共演(文化庁補助事業)
- 8月12日 第5回 作曲教室
ピアニスト萩原麻未氏がゲスト講師として指導
- 9月2日 大槌町で「放課後バイオリン教室」を開始
- 9月15日 相馬市敬老会にて相馬子どもオーケストラ演奏
- 9月23日 エル・システムジャパン チャリティ・ガラ・レセプションにて、相馬子どもオーケストラ選抜メンバー13人が、高円宮妃久子殿下、グスターボ・ドゥダメル氏の前で演奏
- 9月29日 クラリネット奏者 リチャード・ストルツマン氏、マリンバ奏者 ミカ・ストルツマン氏と相馬の子どもたちが週末音楽教室で共演。30日には大野小学校にて鑑賞教室も実施
- 10月4日 第6回 作曲教室
藤倉大氏、ギタリスト山田岳氏が講師として指導
- 11月1日 ルツェルン・フェスティバル アーク・ノヴァ 2014 in 仙台に相馬子どもオーケストラ&コーラスが出演。松井慶太氏がゲスト指揮
- 11月7日 コパケンとその仲間たちオーケストラの相馬公演に相馬子どもオーケストラ&コーラスが出演
- 11月30日 チェリストのマレック・シュバキエヴィッチ氏と相馬子どもオーケストラの交流プログラム
- 12月20日 第7回 作曲教室
作曲家 中川俊郎氏がゲスト講師として指導
- 12月21日 大槌エル・システム バイオリン教室 クリスマスコンサートを開催
- 12月22日 ロサンゼルス・フィルハーモニック リチャード・エレジーノ氏によるピオラ特別教室
- 12月25日 第2回楽天こども音楽祭に参加(楽天協賛)



音楽と向き合い、日々さまざまな表情を見せる子どもたち。活動の中で、子どもたちが話した想いを
ご紹介します。また、子どもたちを見守っている大人たちの想いも合わせてご紹介します。

※学年は当時のものです。



相馬子どもオーケストラ・ピオラ担当 朱音さん(中学2年)
—9月に行われた地域ふれあい敬老会でのあいさつ

「本日は敬老会にお招きいただき、ありがとうございます。私にも5人のおじいちゃん、おばあちゃんがいます。新地町には94歳になる曾ばあちゃん、山上と中村寺前にはおじいちゃんとおばあちゃんが、それぞれ元気に暮らしていて、いつもコンサートの時は必ず聴きにきてくれる、優しいおじいちゃん、おばあちゃん。「朱音の演奏を聞くと元気がもらえるよ!」と言ってくれます。

今年の2月には新地ホームに入居している、曾ばあちゃんのお誕生日に合わせて友だち4人と妹の6人で、ミニコンサートを開催しました。入居している、おじいちゃん、おばあちゃんが(みなさん)集ってくれて、ちょっぴり緊張しました



相馬子どもコーラス 綾乃さん(小学6年)

—3月に行われた東日本大震災追悼式でのあいさつ

「東日本大震災を経験し、今までとはまったく違った町や人々の様子を見たり、私たち自身も怖い思いをしたりしました。しかし、音楽を通して、みんなで励まし合い、元気をみんなで分け合って過ごすことができました。私たちの歌を聞いて、みんなが元気なったり、勇気や希望を持ってもらえたらうれしいです。」

が、楽しく演奏することができ、最後はみんなで「ふるさと」を歌って、みんな笑顔で喜んでくださいました。

私が音楽に出会ったのは、中村第一小学校1年生の時、器楽部の顧問の武山先生に誘われて、バイオリンを始め、毎日、当たり前のように音楽に触れ合ってきました。

しかし、私が4年生の時、平成23年3月11日、あの東日本大震災が発生、小学校が避難所になり、器楽部の活動もできなくなってしまい、避難のためにお友だちが転校して悲しい思いをしました。

そんな中、器楽部で大野台の仮設住宅に慰問に行き、たくさんの皆様が笑顔で喜んでいただいたことが今でも忘れられません。演奏後は、おじいちゃん、おばあちゃんに「あやとりやお手玉など昔の遊びを教えていただき、お礼に肩揉みをして楽しいひとときを過ごしました。」

そんな楽しい思い出が忘れられなくて、中学校に進学しても「エル・システム」に参加して音楽を続けています。音楽には無限の力があります。辛くて悲しい時も音楽を聴くと、心がなごみ、元気が出てきます。

私たち「エル・システム」はこれからも、相馬市の様々な所で演奏することで、皆様に笑顔と元気を与え、少しでも心をやしていただければ幸いです。皆様、これからもお元気でいつまでも長生きしていただき、コンサート開催時はぜひ、聴きにきてください。本日は本当にありがとうございました。」

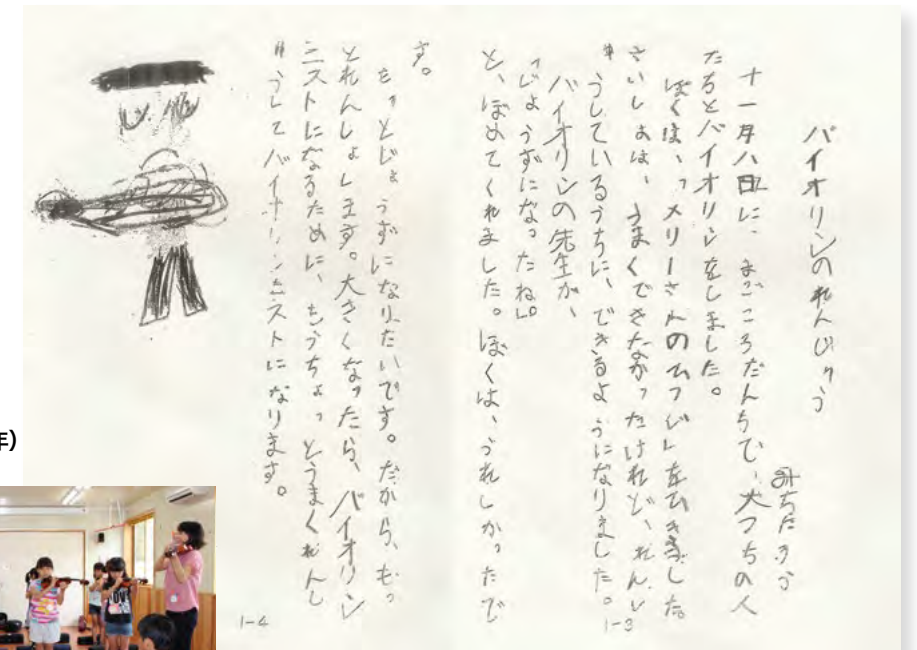


保護者 冬華さん(小学6年)のお母さん

2年目を迎えた昨年度当初は、まだ上手に弾くことに一生懸命な娘でしたが、先生方の熱心なご指導、各種演奏会やイベントを通し、皆で合奏をする楽しさと魅力に気づいたようです。色々な方々との交流は刺激になり、弦楽以外の学びの場にもなります。旋律を口ずさむ娘の心の中は心地良い音楽の世界の中です。ご指導いただいております皆様に感謝いたします。



大槌バイオリン教室
道太郎さん(小学1年)



大槌町教育委員会 主任指導主事 箱山智美先生

吹奏楽部への支援から始まり、日本で活躍する音楽家たちが、講師として音楽の素晴らしさを温かく丁寧に指導くださいました。取り組みはどんどん笑顔につながりました。

小学生の取り組みはバイオリンです。手にすることのなかった楽器ですが、秋の体験講座には多くの子どもたちが参加し、12月にはクリスマスミニコンサートを開催することができました。活動が広がり、さらに笑顔が広がることを期待しています。



演奏指導ボランティア(フェロー) 豊福裕梨奈さん

子どもたちの弾き方を見て、一人ひとりの癖や特徴に合わせたアドバイスするように心がけると、子どもたちにどんどん変化が見えました。楽器を構えると笑顔になり、上達して下級生に教えてあげる子どももいたり、そういう成長を見るのが本当にうれしいです。そして、合奏になるとみんな本当に楽しそう。音楽にはみんなを一つにする素晴らしい力があると思います。これからもフェローとして通い、音楽の楽しさを伝え続けたいです。



外部評価 調査報告

報告書の全文はホームページよりダウンロードいただけます。
エル・システムジャパンホームページ <http://www.elsistemajapan.org>
> 相馬子どもオーケストラ＆コーラス ページの下部

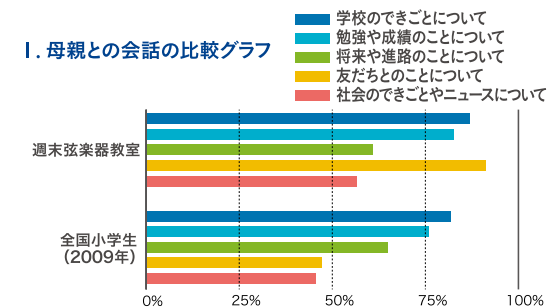
エル・システムのプログラムが、日本の子どもたちのライフスキル(生きる力)の発展にどのように繋がっていくのかを、私たちは十分な形質的なデータに基づいて説明していく必要があると考えています。日本におけるワークショップ手法の第一人者である青山学院大学の荻宿俊文教授にご協力いただき、2013年9月より外部評価調査を実施しています。

相馬市の週末弦楽器教室に参加している子どもたちと保護者を対象に、9項目のアンケート調査を実施し、その結果を全国調査*と比較・分析を行いました。

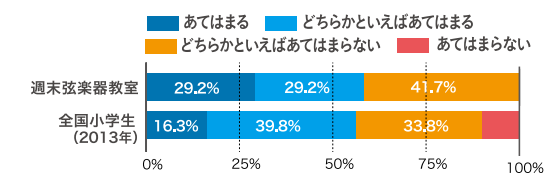
週末弦楽器教室が始まってからまだ2年という状況のため、結論づけられる段階ではありませんが、音楽活動を通して、子どもたちは自己肯定感を育み、友人、周りの大人たちとのコミュニケーションも積極的にとれるようになっていることが理解できます。また、親子にとっては、音楽が一つのコミュニケーションツールとなっていることが読み取れます。

対象： 児童・生徒 58名(小学4年生以上、うち24部回収)
保護者 67世帯(うち33部回収)

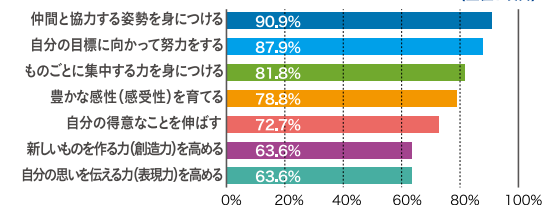
1. 母親との会話の比較グラフ



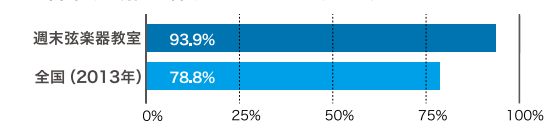
2. 自分の行動や発言に自信を持っている



3. 保護者が週末弦楽器教室を通して子どもに期待すること(上位7項目)



4. 音楽や芸術の活動を通して子どもが成長している



*ベネッセ教育総合研究所がおこなった「第2回学校外教育活動に関する調査 2013」と「第2回子ども生活実態基本調査報告書[2009年]」、栃木県総合教育センターがおこなった「子どもたちのコミュニケーションに関するアンケート調査～集団における望ましい人間関係づくりに関する調査研究～(平成19年度調査研究事業)」の3調査をもとにした。

調査結果：子ども

週末弦楽器教室に通う子どもは、保護者とよく会話をしていることが調査結果から見られました。中でも全国調査との差が大きく見られた母親との会話に関しては、「友だちとのことについて」話す子どもが全国調査よりも44.2%も多く、91.3%という結果となっています(図1)。また、自分の行動や発言に自信を持っているかを問う設問においても、全国に比べ、13%ほど高いという結果が見られました(図2)。その裏づけとして、毎回の活動の中で、経験者や上級生が弾き方を教えている場面や、練習をリードし、まとめている様子が見られます。

調査結果：保護者

「週末弦楽器教室を通して子どもに期待すること」という設問を見ると、90.9%の保護者が挙げた「仲間と協力する姿勢を身につける」ことを含め、3位までが集団の中や普段の生活で活かせる能力を期待しています(図3)。全国調査では、「音楽・芸術活動を通して子どもに期待すること」の回答に、「豊かな感性(感受性)を育てる」が51.1%と最も高くなっていました。また、子どもの成長を感じている保護者は93.9%に上ります(図4)。上述の設問で保護者が期待していた内容に対して、子どもたちの変化が実感できていることが考えられます。

青山学院大学荻宿研究室の調査報告書の最後には以下のコメントが寄せられています。

エル・システムの週末弦楽器教室は、コミュニティがしやすい受け皿として設計されている。排他することを避け、受け入れる可能性を追求する。そして、受け入れたら、必ず居場所を用意している。子どもたちは、演奏会に参加することを通して、自分は欠くことのできない成員の一人であることを自覚できるのである。

週末弦楽器教室では弦楽器の技能を学ぶための演繹的な教育と、週末に出会う成員間での互恵的なコミュニティ形成という帰納的な教育がともに生成されている。なぜなら、そこには「社会的包摂(inclusion)」という排他を拒絶するコンセプトがあるからである。

エル・システムジャパンでは、今後も外部評価調査を継続し、人生の支えとなる生きる力を子どもたちが育んでいけるよう、活動を拡充していきます。

個人・団体・企業の皆様よりご支援をいただき、相馬、大槌の子どもたちに向けた活動を行うことができました。
子どもたちの未来を拓く活動を可能にくださった皆様のご厚意に、心よりお礼申し上げます。

■ご協力いただいた団体・企業

アークヒルズクラブ
Arts Development International
株式会社 IHI
ILBS (国際福祉協会)
IPPNW-Concerts
株式会社アイブロックス
青山学院大学
株式会社アスペン
アトリエ・コジオ
株式会社アライヴン
Alhambra True Light Presbyterian Church
イタリア国立クレモナ弦楽器製作学校
いちのみや音楽祭実行委員会
いのくら屋
岩倉建設株式会社
株式会社インプレザリオ
AFS 友の会
株式会社 effe
株式会社オアシス楽器
一般財団法人音楽の力による復興センター
株式会社 KAJIMOTO
gooddo 株式会社
熊本中央ライオンズクラブ
熊本ユースオーケストラ
株式会社グローバル
Global Giving
慶應義塾ワグネル・ソサエティー・オーケストラ
こども映画教室
公益社団法人才能教育研究会
株式会社サイバードホールディングス
サクソバンクFX証券株式会社
さくらストリングアンサンブル
ZAPUNI
NPO 法人サン・ワールド・ビジョン
C.N.G ビデオプレス
XIA JUNSU with MY ONLY XIA
ジオアーステクノ株式会社
上越歌ごころの会(さくら草・のぎく)
真如苑

仙台市/仙台ジュニアオーケストラ
公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団
そうま音楽夢工房
株式会社ソノリテ
津田塾大学 Peace Concert in 千駄ヶ谷
一般社団法人東京倶楽部
ドワーフ
日本電気株式会社
公益財団法人日本ユニセフ協会
日本ハンガリー合唱交流委員会
日本ベネズエラ協会
日本・ラテンアメリカ婦人協会
野村ホールディングス株式会社
PMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)組織委員会
株式会社 Piece to Peace
日置駿ヴァイオリンリサイタル
Fundación Musical Simón Bolívar
福島こどものみらい映画祭
株式会社フジテレビジョン
funaco design studio
NPO 法人ザ・プレスト・カウンスル
文化庁/相馬市
ベガトレーディング株式会社
駐日ベネズエラ・ボリバル共和国大使館
Berliner Festspiele/Musikfest Berlin
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団財団
ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団
マックコーポレーション株式会社
株式会社ミスターミュージック
三越旅倶楽部(於:ベネズエラ大使公邸)
宮村音楽教室
Musik Platz/上原千穂
明治学院大学
文部科学省
株式会社ヤマハミュージックジャパン
楽天株式会社
リコー社会貢献クラブ・FreeWill
LittleLink, Japan
LVJ グループ株式会社ルイ・ヴィトン ジャパン カンパニー

敬称略、五十音順 2014年12月現在



国内外から様々なアーティストの方にも活動を支援していただきました。エル・システムの理念でもあります「一流の芸術を子どもたちに届ける」ということを、皆様のお陰で実現することができました。

■ご協力いただいたアーティスト

會田瑞樹(打楽器)
ウルリッヒ・アイヒェナウアー (ビオラ)
ユリアンナ・アヴデーエフ(ピアノ)
マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)
石坂団十郎(チェロ)
井上道義(指揮)
伊禮しおり(バイオリン)
インターナショナル・コンテンポラリー・アンサンブル(ICE)
クレア・チェーズ(フルート)
ニック・マスターソン(オーボエ)
ジョシュア・ルービン(クラリネット)
レベッカ・ヘラー (ファゴット)
ナタン・デイヴィス (パーカッション)

エル・システム・ユース・オーケストラ・オブ・カラカス
リチャード・エレジーノ[ロサンゼルス・フィルハーモニック](ビオラ)
&トラベルノーツカルテット
大鹿由希(バイオリン)
小菅優(ピアノ)
コバケンとその仲間たちオーケストラ
小林研一郎(指揮)
瀬崎明日香(バイオリン)
コロネリか(声楽)
シモン・ポリバル弦楽四重奏団
マレック・シュバキエヴィッチ(チェロ)
ミカ・ストルツマン(マリンバ)
リチャード・ストルツマン(クラリネット)
仙台フィルハーモニー管弦楽団
神谷未穂(バイオリン)
宮崎博(バイオリン)
井野邊大輔(ビオラ)
三宅進(チェロ)
助川龍(コントラバス)

竹森かほり(クラリネット)
綱川淳美(パーカッション)
グスターボ・ドゥダメル(指揮)
中川俊郎(作曲)
中川日出鷹(ファゴット)
萩原麻未(ピアノ)
花田和加子(バイオリン・ビオラ)
ディートリヒ・パレーデス(指揮)
カイ・フォークラー (バイオリン)
藤倉大(作曲)
プロムジカ女声合唱団
デーネシュ・サボー (指揮)
ベルリン・フィル 12 人のチェリストたち
ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団
ミハエル・ハーゼル(フルート)
アンドレアス・ヴィットマン(オーボエ)
ヴァルター・ザイファルト(クラリネット)
ファーガス・マクウィリアム(ホルン)
マリオン・ラインハルト(ファゴット)

松井慶太(指揮)
ダニエル・マツカワ (指揮) & PMF 修了生
神永枝理子(ビオラ)
佐々木絵里子(バイオリン)、
本橋はる子(バイオリン)
山口順子(バイオリン)
松平敬(声楽)
山田岳 (ギター)
吉川武典(トロンボーン)
ラッキィ池田&彩木エリ(振付)
リベルタドレス弦楽四重奏団
ル・ムジケ・クアルテット
シモン・ベルナルディーニ(バイオリン)
クリストフ・ホラーク(バイオリン)
アンドレアス・ウィルワール(ビオラ)
ウルリケ・ホフマン(チェロ)
モーリス・レイナ(クワトロ)

敬称略、五十音順 2014 年 12 月現在



©FESJ/2013/Mariko Tagashira



©2014 by Peter Brune



©2014 by Peter Brune



©FESJ/2013/Mariko Tagashira



©2014 by Peter Brune



©FESJ/2013/Mariko Tagashira



©FESJ/2014



©FESJ/2014/Mariko Tagashira

グスターボ・ドゥダメル氏

— 子どもたちの演奏を聴いて

相馬から東京までやって来て演奏してくれた子どもたち。君たちに、なによりもたくさんの感謝と愛を伝えたい。君たちの奏でるモーツァルトを聴けたことは、私にとって心を揺さぶられる体験でした。君たち、相馬にいるオーケストラの仲間たち、そして、なによりも君たちの家族に、私から果てることのないサポートを与えます。そう、音楽によって私と君たちは繋がっていますから。

藤倉大氏

— 作曲教室の監修を通して

相馬でおこなっている作曲教室は、ちょっと変わっている。まず参加は音楽をやっている人なら誰でもでき、入るのも無料、いつ辞めても良い、教室中に作曲したければする、したくなければする必要なし(でもみんな何か書いていく)。とにかく結果を出さなくても別に良い、というもの。この教室では作曲の本当の行為だけをするので、僕にとっては本当に原点に戻った感じがする。ちょうど彼らと同じ8歳くらいの時に、作曲を誰に言われるともなく延々とやっていた時のよう。その気持ちをいつまでも忘れないでいいといいけない、と思う。

この決算報告は、2014年度(1月～12月)の財務諸表の抜粋です。皆様のご支援により、4,000万円規模の事業を実施することができました。

＊財務諸表の全文はwebサイトwww.elsistemajapan.orgでご覧いただけます。

平成26年度 貸借対照表

平成26年12月31日現在(税込)(単位:円)

科目	金額
資産の部	
流動資産	
現金・預金	
現金	475,732
ゆうちょ 当座	74,949
ゆうちょ 普通	5,760,750
三菱東京UFJ 普通預金	18,014,866
現金・預金 計	24,326,297
売上債権	
未収金	12,000
売上債権 計	12,000
その他流動資産	
仮払金	315,961
その他流動資産 計	315,961
流動資産 合計	24,654,258
固定資産	
有形固定資産	
楽器 類	4,812,645
什器 備品	329,965
減価償却累計額	△ 2,349,987
有形固定資産 計	2,792,623
無形固定資産	
ソフトウェア	106,249
無形固定資産 計	106,249
固定資産 合計	2,898,872
資産の部 合計	27,553,130

負債の部

流動負債	
未払金	831,350
預り金	78,938
流動負債 計	910,288
負債の部 合計	910,288

正味財産の部

正味財産	
前期繰越正味財産額	6,989,380
当期一般正味財産増減額	7,217,326
当期指定正味財産増減額	12,436,136
正味財産 計	26,642,842
正味財産の部 合計	26,642,842

負債・正味財産の部 合計	27,553,130
-------------------------------	-----------------------------

平成26年度 正味財産増減計算書

平成26年1月1日～12月31日(単位:円)

科目	事業会計	法人会計	合計
I.一般正味財産増減の部			
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
受取会費			
正会員受取会費	0	24,000	24,000
賛助会員受取会費	800,000	597,000	1,397,000
受取助成金等			
受取民間助成金	700,000	300,000	1,000,000
受取公的補助金(市・国)振替額	19,908,065	1,160,927	21,068,992
受取寄付金			
受取寄付金(個人)	5,825,602	3,000,000	8,825,602
受取寄付金(企業・団体等)	17,003,049	2,000,000	19,003,049
雑収益			
受取利息	0	1,068	1,068
雑収益計	0	1,068	1,068
経常収益計	44,236,716	7,082,995	51,319,711
(2)経常費用			
事業費			
現地事業費(相馬)計	30,902,564	0	30,902,564
現地事業費(大槌)計	4,088,344	0	4,088,344
現地事業費(共通)計	1,521,046	0	1,521,046
広報資金調達事業費 計	3,194,950	0	3,194,950
事業費計	39,706,904	0	39,706,904
管理費計	0	4,395,481	4,395,481
経常費用計	39,706,904	4,395,481	44,102,385
当期経常増減額	4,529,812	2,687,514	7,217,326
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	4,529,812	2,687,514	7,217,326
一般正味財産期首残高	4,745,425	861,783	5,607,208
一般正味財産期末残高	9,275,237	3,549,297	12,824,534

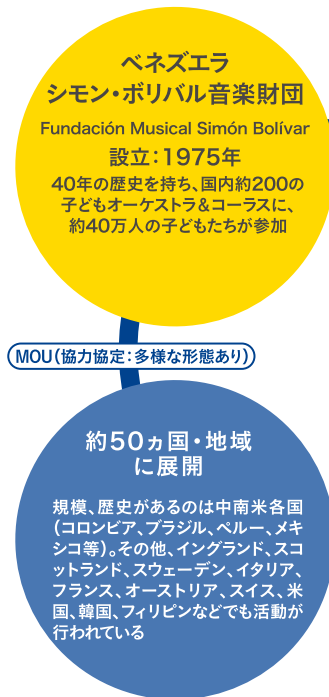
II.指定正味財産増減の部

受取寄付・補助金等			
受取公的補助金	32,141,515	1,363,613	33,505,128
一般正味財産への振替額			
公的補助金の振替額	19,908,065	1,160,927	21,068,992
当期指定正味財産増減額	12,233,450	202,686	12,436,136
指定正味財産期首残高	1,243,955	138,217	1,382,172
指定正味財産期末残高	13,477,405	340,903	13,818,308

III. 正味財産期末残高	22,752,642	3,890,200	26,642,842
--------------------------------	-----------------------------	----------------------------	-----------------------------

組織関係図

世界での取り組み



日本での取り組み



将来は、困難な立場にいる子ども(不登校、いじめ、貧困世帯、障害児)を対象に、他の被災地、そして、他の国内地域への展開を計画

役員・スタッフ (2015年5月現在)

理事

- 菊川穰 (代表理事)
- 井上知美
- 土井香苗 (Human Rights Watch Japan ディレクター)

監事

- 竹内章子 (弁護士)
- 矢崎芽生 (公認会計士・税理士)

スタッフ

- 本部 4名(代表理事 1名、従業員 1名、業務委託 2名)
- 相馬 5名(業務委託 5名)
- 大槌 2名(従業員 1名、業務委託 1名)

音楽指導ボランティア(フェロー)

19名

音楽監督

古橋富士雄 (コーラス)
指揮者。NHK 東京児童合唱団常任指揮者(音楽監督)、桐朋学園大学音楽学部講師、東京家政学院短期大学講師、日本合唱指揮者協会理事長、浜松市アクトシティ音楽院音楽監督、日本コダーイ協会理事を歴任する。特に40数年に渡り「NHK 東京児童合唱団」を愛情と情熱に満ちた指導により世界レベルの合唱団に育て上げ、国内外数多くの賞を受賞し、日本における第一線の演奏団体に育てた氏の力量は称賛されている。

浅岡洋平 (オーケストラ)

チェリスト、指揮者。東京芸術大学在学中に第31回「文化放送音楽賞」を受賞。ニューヨークのジュリアード音楽院に留学。日米両校において大学院を修了。現在は、指揮者・演出・音楽監督として、クラシック音楽の普及と再創造に取り組んでいる。また、ダルクローズ・メソッド、アレキサンダー・テクニーク、ルドルフ・ラバンの身体表現理論を軸に、ユース・オーケストラ教育カリキュラムの制作と実践指導を行っている。

岡崎明義 (吹奏楽)

フルート奏者。福島県相馬市生まれ。専門学校尚美高等音楽院(現 尚美ミュージックカレッジ)講師、尚美音楽短期大学助教授、尚美学園大学芸術情報学部音楽表現学科教授職を勤め上げる。東京交響楽団との協奏曲共演をはじめ、ソロ演奏や木管アンサンブルなどでの演奏活動でも活躍。全国各地で音楽指導者・コンクール審査員も務める。現在、(社)日本フルート協会代議員、アジアフルート連盟日本本部常任理事。



©FESJ/2013/Mariko Tagashira

2012年3月23日	設立
2012年5月7日	相馬市と「音楽を通して生きる力を育む」事業の実施運営に係る協力協定書を締結。市内の小学校の部活動支援(弦楽合奏、合唱、金管バンド)、既存の音楽授業へ支援、楽器の修繕・購入を行う
2012年7月24日	ベネズエラのエル・システムを統括するシモン・ポリバル音楽財団と了解書を締結。日本における唯一のエル・システム式音楽教育普及団体として認定される。同日、エル・システムジャパン、明治学院大学共催シンポジウム「音楽を通して生きる力を育む：社会変革の力としてのエル・システム」を開催
2012年7月25日	米国エル・システム関係者により、初の研修会を相馬市にて3日にわたり実施
2013年2月24日	初のコンサート「エル・システム ジョイントコンサート」を相馬市はまなす館にて開催。相馬市内で支援を行った小学校3校(中村第一小、桜丘小、八幡小) 157名の子どもたちが参加
2013年4月28日	新中学生となった弦楽器経験者も継続して練習ができるよう「週末弦楽器教室」を開始。8月には、市内の全ての小中学生を対象を拡大
2013年8月8日	ベネズエラのエル・システム関係者による3日間の夏期学習会を実施
2013年9月1日	青山学院大学刈宿俊文教授が率いるチームによる外部評価調査を開始
2013年9月21日	ベルリン・フィル木管五重奏団による支援チャリティコンサートを相馬市で開催
2013年11月9日	作曲家・藤倉大氏による作曲教室を相馬市で開始。以降、約2ヶ月に1回のペースで開催
2013年12月23日	震災後再建された新市民会館にて「相馬子どもオーケストラ&コーラス」(135名)の初公演であるクリスマスコンサートを開催
2014年4月1日	相馬市での一部活動が平成26年度文化庁地域発芸術文化創造イニシアチブとして予算化
2014年4月5日	相馬市にて「週末合唱教室」を開始
2014年5月28日	大槌町と「音楽を通して生きる力を育む」事業の実施運営に係る協力協定を締結。町内の小・中学校の吹奏楽部への支援、楽器支援を開始
2014年9月2日	大槌町にて「放課後バイオリン教室」を開始



©2014 by Peter Brune

エル・システムジャパンでは、ホームページやFacebook、twitterを通じて、相馬、大槌での活動や子どもたちの様子を随時ご報告しています。こちらもぜひご覧ください。

ホームページ

www.elsistemajapan.org

facebook

 [elsistemajapan](https://www.facebook.com/elsistemajapan)<https://www.facebook.com/elsistemajapan>

twitter

 [@ElSistemaJapan](https://twitter.com/ElSistemaJapan)<https://twitter.com/ElSistemaJapan>

エル・システムジャパン 活動報告書2014

発行 一般社団法人 エル・システムジャパン
東京都千代田区神田小川町3-24
大栄堂第2ビル 3F
tel 03-6280-6624
fax 03-6280-6634

発行日 2015年6月
デザイン協力 舟越一郎

